

公益財団法人日本海事センター

第64回理事会議事録

- 1 開催場所 海事センタービル「4階会議室」
- 2 開催日時 令和6年3月6日（水）11時30分～12時10分
- 3 理事現在数及び定足数
現在数 12名、定足数7名
- 4 出席理事 10名
（本人出席）宿利正史、平垣内久隆、下野元也、宇佐美和里、亀山真吾、坂下広朗、寺門雅史、中村伸也、二村真理子、望月 誠
（ウェブ出席）なし
（欠席理事）阿曾智孝、田村城太郎
（出席監事）石川 尚、阪本敏章、中本光夫
（議案説明及び報告）下野元也常務理事
- 5 議 案 第1号議案「令和6年度事業計画書及び収支予算書等」について
報告事項 ①第60回理事会以降の業務執行状況について
②第40回評議員会の決議内容について
- 6 会議の概要
（1）定足数の確認
冒頭で国安総務部長から定足数の充足を確認した。
（2）議案の審議状況及び議決結果
定款に基づき、宿利正史会長が議長となり、議案の審議に入った。
また、議長は、定款第47条第2項の規定に基づき、議事録署名人は代表理事及び監事になる旨を告げた。
（決議事項）
第1号議案「令和6年度事業計画書及び収支予算書等」について
議長の求めに応じ、下野元也常務理事から、「令和6年度事業計画書（案）」、「収支予算書（案）」及び「資金調達及び設備投資見込み」について議案説明があった。
また、次のような質疑があった。
（中本監事）
海外の海事人材の教育制度の調査は重要だが、従来は日本での労働を希望する外国人船員が多い中で他国の船員の資格取得を指導するということがあったが、優秀な人材を取り合う時代になって、いい人材に日本に来てもらうという視点は入っているのか。
（下野常務理事）
世界的に船員の人材確保競争になっているのは事実であり、日本

の外航関係者も優秀な船員や洋上風力発電等の新分野の海事人材の獲得に悩んでいる。先進国である欧州等はどんな形で他国の船員に自国に来てもらい、その上で育成しているのか、という視点で調査に取り組みたい。

(中本監事)

ノルウェー、中国はどのような教育をやっているのかという視点も入っているのか。

(下野常務理事)

そのような視点をもって調査をしています。

(宿利会長)

日本の海事人材の養成体制が今のままでいいかという課題があり、問題提起されている。日本国内の制度の見直しにつながる情報収集も心掛けていきたい。

(坂下理事)

日本海事センターと日本海事協会は脱炭素等で協力しているが、2050年に向けての道筋は容易ではないことが明らかになっている。規制とビジネス、インフラ等をどう調整していくか社会の課題になっているので、計画している事業をしっかりと進めていただきたい。

審議の結果、原案どおり出席理事全員一致で可決した。

(報告事項)

①業務執行状況について

下野元也常務理事から、令和5年5月24日開催の第60回理事会以降の公益目的事業の調査研究・政策提言事業、海事関係図書館の管理、運営事業及び海事関係公益活動支援事業、収益事業の海事センタービルの管理、運営事業及び融資事業に係る業務執行状況を報告し、了承された。

②第40回評議員会の決議内容について

下野元也常務理事から、第40回評議員会（令和5年10月6日開催、書面決議）の決議内容を報告し、了承された。

以上をもって議案の審議等を終了したので、12時10分、議長は閉会を宣し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した代表理事及び監事は記名押印する。

令和6年3月6日

代表理事 宿利 正史

監 事 石川 尚

監 事 阪本 敏章

監 事 中本 光夫